

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

《人社系》

●長崎大学経済学研究科経済経営政策専攻

「新興金融市場分析の専門家育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・新興金融市場の高度な分析に必要な高度専門知識の習得を目的として、本研究科博士前期課程の経営学修士 (MBA) コースのファイナンス科目群に「アジア市場分析Ⅰ (制度分析)」、「アジア市場分析Ⅱ (理論・政策分析)」を設置するとともに、高度な分析手法の習得を目的として「アジア市場分析Ⅲ (数量分析)」を設置した。また、東京での研修や中国でのフィールドワークを導入することによって、コースワークを構築した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・金融市場の分析に必要な専門知識の習得のために、「アジア市場分析Ⅰ (制度分析)」と「アジア市場分析Ⅱ (理論・制度分析)」を実施した。「アジア市場分析Ⅰ」では、中国金融界に有為な人材を多数輩出している西南財経大学から講師を招聘し、中国の金融市場に関する正確な知識の習得ができるように配慮した。また、招聘した講師には、講義とは別に学生の研究テーマに応じて必要な情報の提供とともに、それを通じて中国でのフィールドワークの内容にも配慮をするよう事前に依頼した。「アジア市場分析Ⅱ (理論・政策分析)」では、金融市場分析に必要な知識を幅広く習得できるようにするため、本研究科のコーディネータの調整の下、ファイナンス、金融、会計分野等の教員によるオムニバス講義を実施した。知識の定着を確実なものとするため、担当教員ごとに宿題やレポートを課すようにした。
- ・金融市場の分析手法の習得のために、「アジア市場分析Ⅲ (数量分析)」を実施した。この科目では、統計学・計量経済学等の基礎理論の講義とともに、統計・計量分析ソフトウェアを活用した演習型の講義を実施した。本講義では、ノート型パソコンやソフトウェア整備し、学生に貸与した。
- ・学生の英語運用能力を涵養するため、すべての講義は英語で実施した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・アジア市場分析Ⅰ・Ⅱ・Ⅲという3科目を本研究科の常置科目としたことにより、本プログラム終了後も継続的な開講が可能となった。これにより、本研究科

博士前期課程の経営学修士 (MBA) コースでファイナンス分野の研究を希望する学生が、ファイナンス科目群の科目履修のみで修了要件を充足することが可能となった

- ・「アジア市場分析Ⅰ（制度分析）」では、学生の中国金融市場に対する関心が高まり、金融市場の概要等を理解することができた。「アジア市場分析Ⅱ（理論・制度分析）」では、金融、ファイナンス、会計、国際金融、国際マクロ経済といった多角的視点を学生が持つことができた。「アジア市場分析Ⅲ（数量分析）」では、アジア金融市場の具体的データを用いた数量分析能力が向上した。
- ・本取組に参加した学生からも満足度の高さがわかる。他方で、資料配布を早い時点で行うことによって、余裕をもって予習できるようにする配慮も必要だということがわかった。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《人社系》

●長崎大学経済学研究科経済経営政策専攻

「新興金融市場分析の専門家育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・新興金融市場分析に必要な情報収集能力等を向上させるために、東京研修及び中国でのフィールド研究を行った。東京実習は、東京証券取引所等において、市場構造や取引慣行を学ぶことによって、中国でのフィールド研究の参照基準を形成することを目的とし、夏季休業期間に実施している。中国でのフィールド研究では、博士前期課程2年次第2セメスターに、西南財経大学において、現地大学教員による講義のほか、地元金融機関など金融市場参加者へのヒアリング等による情報収集を行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・東京実習では、東京証券取引所との間でカリキュラムの内容の打ち合わせを行い、「日本経済と証券市場の機能・役割」等を内容とすることにした。このほか、大和ホールディングスやあいおいニッセイ同和損害保険などの協力を得て、証券会社や機関投資家の立場からの研修を受けることも可能となった。
- ・中国でのフィールド研究を円滑なものとするため、「アジア市場分析Ⅰ」で招聘した西南財経大学の教員と学生が事前に研究テーマについての話し合いの場をもったり、テレビ会議システムを利用した事前指導を行ったりした。他方で、学生が滞在中に、現地で反日デモが発生し、学生に危険がないかが心配されたため、現地の大学と頻繁な情報のやりとりを行うことがあった。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・東京実習は、博士前期課程2年次生のほか1年次生も参加可能とした。これにより、1年次では東京証券取引所などの現状を理解し、2年次には各自のテーマや問題意識に基づく情報収集が可能となった。
- ・中国でのフィールド研究の成果として、修士論文の作成に必要な資料や情報収集を行うことができたことと、西南財経大学の教員による適切な指導を受けることによって、論点整理や論文の改善ができるなどの成果が見られた。
- ・学生によるアンケートでも、金融についての視野が広がったという感想や、同じ金融市場について日本と中国とにおいて捉え方が違うことがわかったという

感想がみられた。東京研修や中国でのフィールドワークの目的が達成されているといえる。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

F. その他

②国際シンポジウム等の開催

《人社系》

●長崎大学経済学研究科経済経営政策専攻

「新興金融市場分析の専門家育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・本研究科が毎年主催してきた国際カンファレンス“International Conference on Asian Financial Market”に院生セッションを設け、学生には研究成果の報告を課した。これにより、高度な専門性をもった調査研究能力の育成と同時に、国内外の研究者による助言指導を受けることによって、修士論文の質を国際水準で保障することが可能になると同時に、英語による報告と質疑を通じて、専門分野の高度な英語運用能力の向上が図られた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・「アジア市場分析Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の講義や東京研修・中国でのフィールド研究の研究成果をまとめることに加え、英語運用能力の向上のためにチューター等による英会話のプログラムを実施した。当初は、本学に留学している学生をチューターとして雇用して、本取組に参加する個々の学生に一人ずつチューターを配置したが、個々の時間調整等の事務作業が煩雑だったため、非常勤講師を雇用して、入学後の早い時期からの実施に変更した。講師には、英会話だけではなく、国際カンファレンスでのパワーポイント等のスライドの構成、発表の仕方などを丁寧に教えてもらうことができた。
- ・1年次生も国際カンファレンスに参加することによって、ファイナンス分野の最新の研究動向や英語による報告や議論の仕方を学ぶとともに、どのような助言指導がなされているかを学ぶ機会とした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・国際カンファレンスでは、パワーポイントの作成や発表の仕方等について事前指導を受けることによって、学生は効果的な発表を行い、国内外の専門家や研究者とも質疑応答をすることができた。
- ・学生のアンケートでも、学生からは、達成感を感じたとか、自分の成長を感じたなどの感想があり、満足していることが伺えた。また、国際カンファレンスに参加した研究者からも、「修士課程の学生とは思えない」とか「興味深い内容である」という良好な評価を得ることができた。

- この成果を基に、学生は修士論文を英語で執筆した。
- 本取組に協力する西南財経大学とは、2010年から本カンファレンスの共催となった。2012年度については、西南財経大学で開催する予定である。さらに、韓国の中央大学校においても、2013年度に開催する予定となっている。